



# 神奈川県立 公文書館だより

## 第48号

編集発行 神奈川県立公文書館

〒241-0815 横浜市旭区中尾1-6-1

電話 045 (364) 4456

FAX 045 (364) 4459

<https://archives.pref.kanagawa.jp/>

休館日:月曜日、祝日(月曜日と重なる場合は翌日)、年末年始(12月28日から1月4日)

## 幕末の異国船来航関係資料

令和4年度 古文書講座資料から

令和五年二月五日、古文書講座  
応用編の第一回目が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により古文書講座応用編は三年ぶりの開催となりましたが、当日は多くの受講者の方にご参加いただき事ができました。

第一回目の講座では、「異国船来航と動揺する国内―神奈川の幕末史料を読む―」と題し、主に江戸時代の後期〜幕末頃にかけて相模国(現在の神奈川県のうち川崎市と横浜市の一部を除く地域)付近へ来航した異国船(外国船)にまつわる当館所蔵の資料を取り上げました。

### 【江戸時代の異国船来航】

江戸時代の日本は基本的に海外との交易を広くは行っておらず、交易相手の国はオランダ・中国・朝鮮・琉球等のみでした。ところが、十九世紀頃から、ロシアやイギリス、アメリカといったような、それまで交易・交流をしていなかった外国の船が日本へ頻繁に来航する

ようになり、資料上でそれらの船は「異国船」と表記されることが多くありました。相模国付近の海域も例外ではなく、文政元(一八一八)年にイギリス船のブラザーズ号が浦賀へ来航した事例を端緒として、有名な嘉永六(一八五三)年のペリーによる浦賀来航と通商の要求よりも前の段階で、複数回にわたって異国船が来航していたのです。

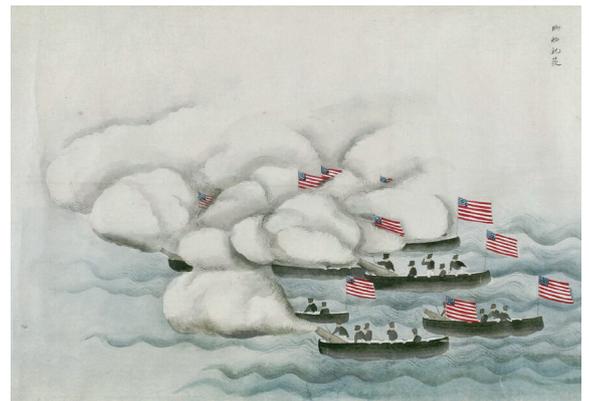
### 【公文書館所蔵の異国船関係資料】

公文書館には、天保期頃から横浜港開港辺りの時期にかけての異国船来航時の記録や、外国使節との交渉の記録などから構成されている資料群「幕末維新史料」(資料群ID 920070007)を始めとして、渡来した外国船や外国の人々の風貌を写した絵図や横浜の警備絵図などを含む資料群「近世諸家文書」(資料群ID 920090028)や、ペリー来航時の様子を描いた絵巻「金河奇勝」(資料ID 219940071)など、異国船来航に関する資料が多く所蔵されています。

### 【軍艦がやってきた】

異国船の来航を記録した資料として、まずとりあげたものが「米艦渡来雑記 乾」(資料ID 220072005)です。この資料は、主に弘化〜安政年間にかけてのアメリカ船来航に関する様々な記録が集約された記録集です。収録されている記録の中から、講座では、弘化三(一八四六)年にアメリカから東インド艦隊司令長官のビッドルという人物が浦賀へ、軍艦二艘を率いて来航した際の記録を講読しました。この出来事は、浦賀沖の地域にとって、初めての軍艦来航でした。

資料内では、「弘化三丙午年六月二日浦賀表江相越同所懇意之者二出会、此度渡来申候異国船之義承



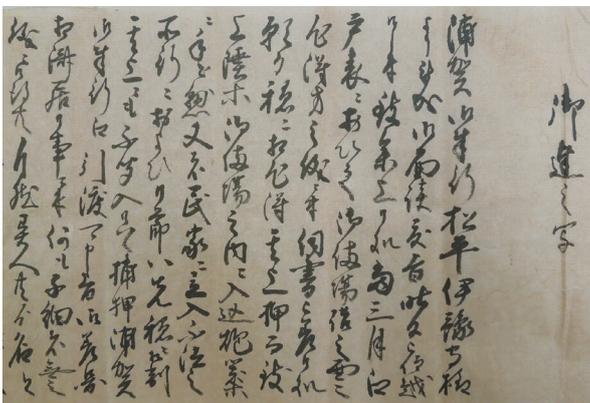
「金河奇勝」より祝砲を打つアメリカ船の図

り候覧書」つまり「弘化三年六月二日に浦賀へ赴き、懇意にしている者に出会って、このたび渡来した異国船について聞いた事の覚え書き」であるとして、船が来航した際の様子や船の外見、乗船していたアメリカ人の様子などが述べられています。しかし、実はこの資料の内容には留意すべき点があります。記述によると、①アメリカ船の来航理由は薪や水が不足しており供給を求めたため、②来航した大きい方の船は、縦九一〇メートルくらい、③船へは大量の武器が積み込まれていたなどの情報が列記されています。一方、ビッドルの浦賀来航について、現在までの歴史研究等で判明してきた事実と照らし合わせると、①来航の第一目的は、日本との通商を要求するためであり、薪・水の不足だけが理由ではない、②実際の船の大きさは縦五八メートル程であり、「米艦渡来雑記」記載の大きさよりは小さい、③武器は実際に多く積まれていたといったように、資料の記述には事実とは異なる情報・曖昧な情報・正しい情報が混在している事が分かります。異国船の来航は、当時の人々にとって衝撃的な出来事であり、関連する記録資料も多く残されていますが、この「米艦渡来雑記」のように、資料には他人からの伝聞を写したもので、錯綜する情報や噂をリアルタイムに記録したものなども多

く、事実とは異なる情報も含まれている事が多々ありました。

【海洋警備の心得】

さらに講座では、実際に異国船への警備に当たった人々の記録として「御達之写(御備場詰之面々心得方)」(資料ID 2200431261)という資料も取り上げました。この資料は、嘉永七(一八五四)年頃のもので推測され、当時三浦半島地域の海岸警備の役務を担っていた熊本藩の江戸留守居役青地源右衛門らが、異国船に対する海岸警備の心得を書き写したものです。



「御達之写(御備場詰之面々心得方)」

資料では、異国船と乗組員への対応として、「上陸等御備場之内ニ入込、砲器等二手を懸、又者民家ニ立入不法之所行ニおよひ候節ハ、先

穩ニ相割其上ニも不聞入候ハ、捕押、浦賀御奉行江引渡可申」つまり無理やりに上陸したり、民家などに立入って不法な行いをした場合であってもまずは穏やかに対応し、それでも聞き入れない場合は捕らえて浦賀奉行へ引き渡す事と記されており、その後の記述においても何度も「穏やかに」対応する事を強調している事が読み取れます。嘉永七年当時はペリーが浦賀へ来航し日本は通商の要求に応じるといった開国へ向けた転機の時期に当たりますが、異国船の来航機会が増加し、通商へ向けた体制を整えていくために、諸外国との関係を悪化させるような事態は避けるよう、対応に苦慮していた様子うかがう事ができるのです。

冒頭にも書きましたように、今回の講座は約三年ぶりの開催でございましたが、定員を超える多くの方々から参加のご応募をいただき、当日も大変盛況となりました。また終了後には、講座の再開を待っていたとお声や、講座をきっかけに初めて公文書館へ訪れた等のお声もいただきました。次年度からも、当館所蔵の古文書や神奈川県史について広く皆様を知っていただけるよう、より良い講座の実施を目指して参りたいと存じます。

(資料課 近藤絢音)

展示のご案内

◆令和5年度収蔵資料展示

5月中旬から6月中旬まで

企画展示

「関東大震災百年」(仮)

7月上旬から9月下旬まで

講座のご案内

◆夏休み親子講座 7月30日(日)

◆アーカイブズ講座 11月5日(日)

◆古文書講座入門編(A日程)

10月8日～10月22日の各日曜日(全3回)

◆古文書講座入門編(B日程)

11月12日～11月26日の各日曜日(全3回)

◆古文書講座応用編

12月10日～12月24日の各日曜日(全3回)

※詳細は後日当館ホームページでお知らせします。

公文書館へのアクセス

電車の場合 相鉄線「二俣川駅」(横浜駅から特急または急行で11分)下車、二俣川駅北口より徒歩17分  
二俣川駅北口より相鉄バス「旭23運転免許センター循環」二俣川駅北口行きで「運転免許センター」停留所下車、徒歩3分  
車の場合 「保土ヶ谷バイパス」本村インターから6分  
※駐車スペースが少ないため、できるだけ公共交通機関をご利用ください。